

断層モデル

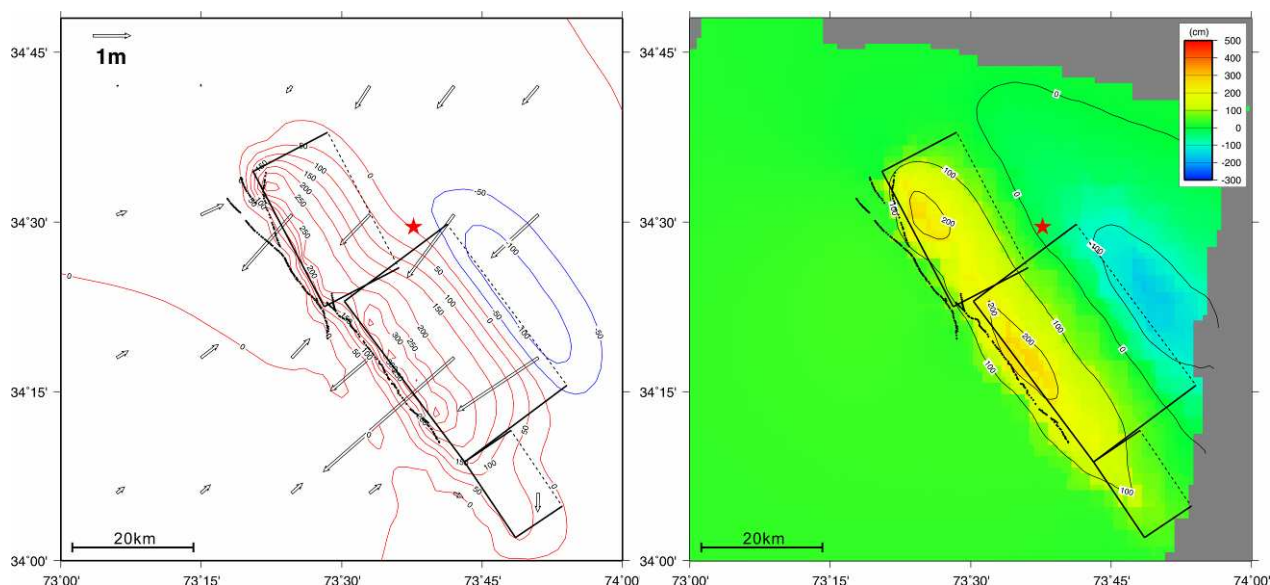


図7 断層モデルによる変動量計算値の分布

左図：矢印は水平方向のモデル変動量、赤・青線は上下方向のモデル変動量（cm）

右図：SAR衛星—地表視線方向のモデル変動量（cm。図4に相当する量）

矩形3カ所が推定された断層の位置で、破線側のほうが深い。★はUSGSによる震源位置。黒点線は既知の活断層位置（図5と同様）。

北側断層 走向 332° 傾斜 38° 滑り角度 104° 幅 17km 長さ 25km 上端深 0.3km 滑り量 6.0m

中央断層 走向 323° 傾斜 16° 滑り角度 92° 幅 22km 長さ 32km 上端深 1.5km 滑り量 8.6m

南側断層 走向 325° 傾斜 33° 滑り角度 103° 幅 11km 長さ 15km 上端深 1.5km 滑り量 2.2m

3つの断層の合計マグニチュードは7.6（USGSの地震波によるマグニチュードも7.6）

- 図7の断層モデルは図4の人工衛星による地殻変動量をもとに数値計算によって求めた。3枚の矩形断層がそれぞれ一様なすべり量をもってすべったと仮定して計算している。
- 各断層ともに、北東側隆起の逆断層で右横ずれ成分（南西側から見て北東側が南東側に水平移動）をもつ。形状は南西側が地表に近く、北東側が深い。